

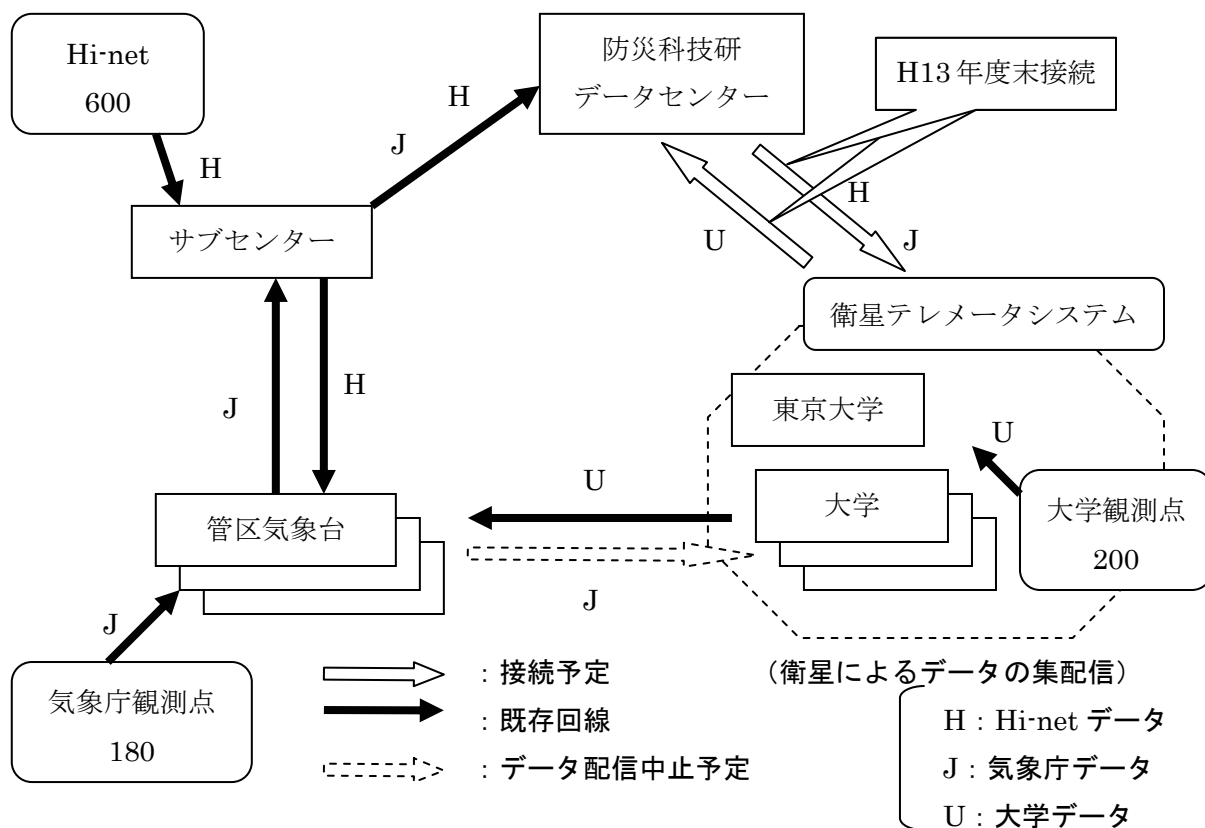


図6. 1 気象庁・防災科研・大学間のデータ流通システム（平成13年度実施）

気象庁・防災科研・大学の3者の合意による、平成13年度末からのHi-net等のデータ流通システム。各大学には、衛星テレメータシステムを利用してHi-netデータや気象庁データなどすべてのデータがリアルタイムで流通する。

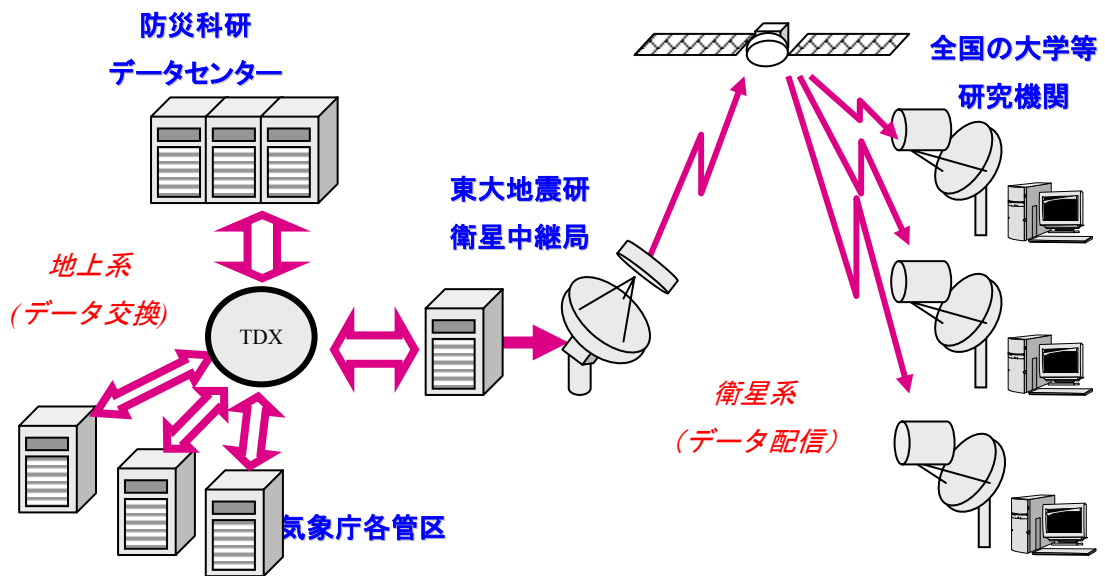


図 6. 2 高感度地震波形データの全国リアルタイム流通システムの構成

地上系システムでは，気象庁・防災科研・大学が，お互いに TDX にデータを送出し同時に TDX から他機関のデータを取り込む．大学は，衛星テレメータシステムを利用してすべてのデータをリアルタイムで全国に配信する．

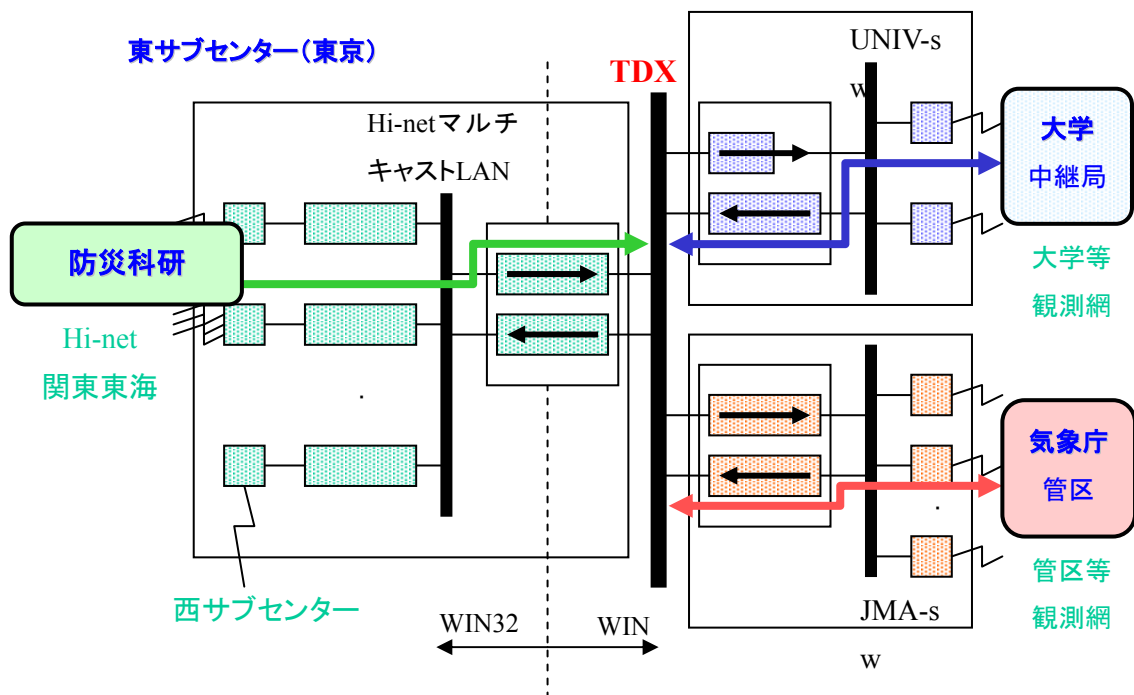


図 6. 3 TDX (Tokyo Data Exchange)におけるデータ交換システムの構成

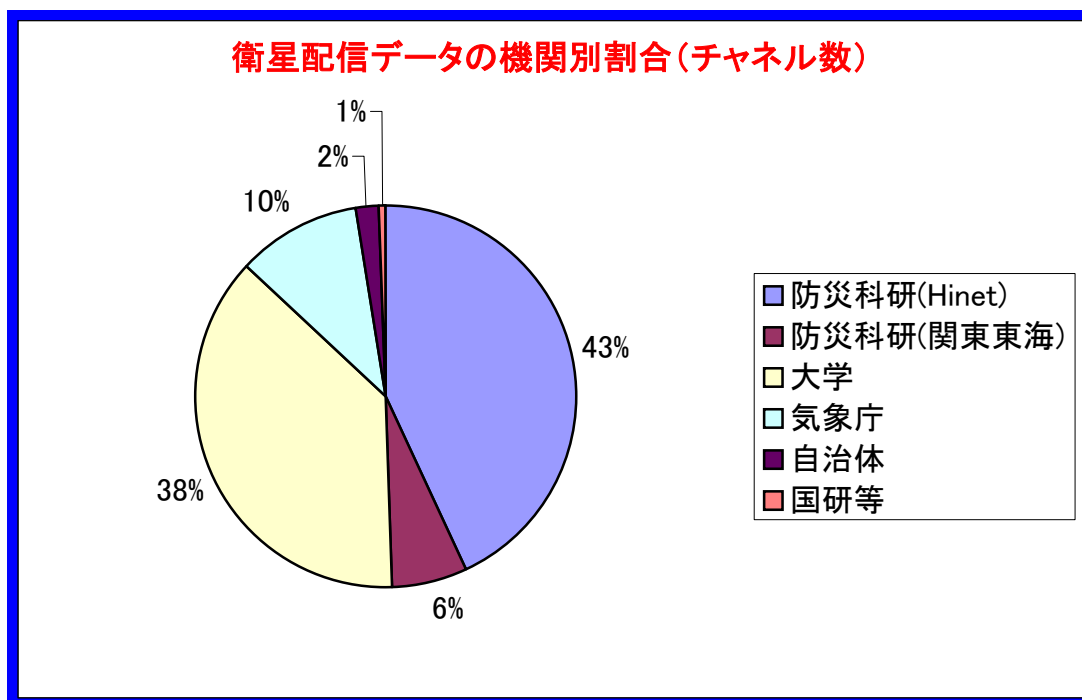


図 6. 4 衛星配信データの機関別割合(チャンネル数)



図 6. 5 衛星データ受信専用装置(卜部・植平 1998)

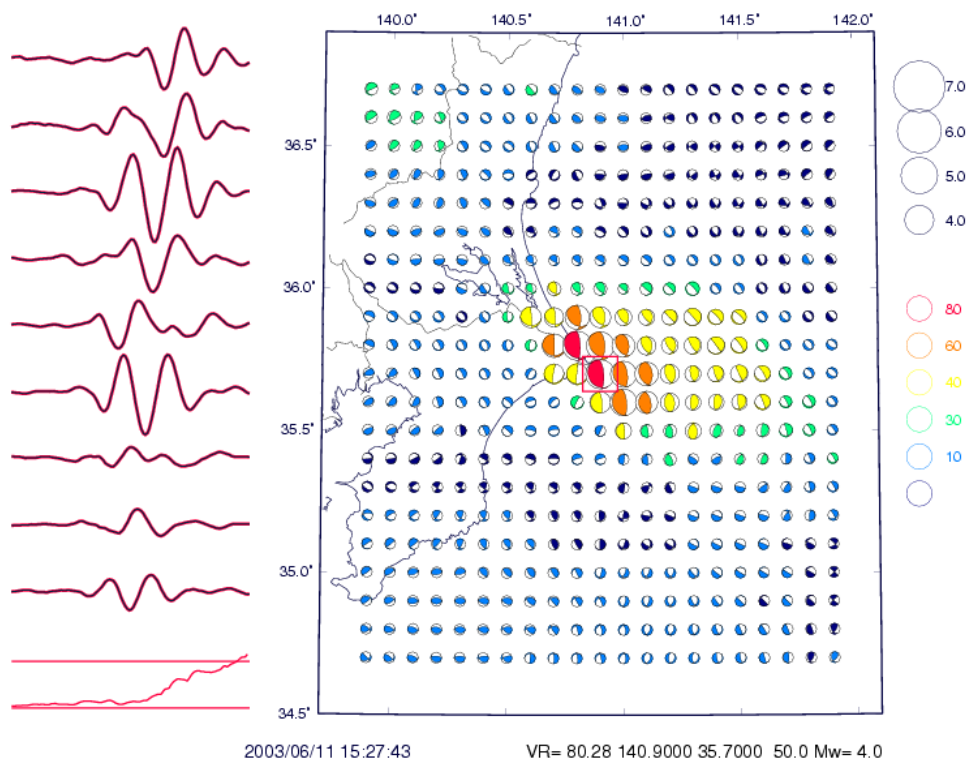


図 6. 6 GRiD MT (Grid-based RealTime Determination of Moment Tensors)による地震波動場のリアルタイム解析システム（鶴岡，川勝，卜部）

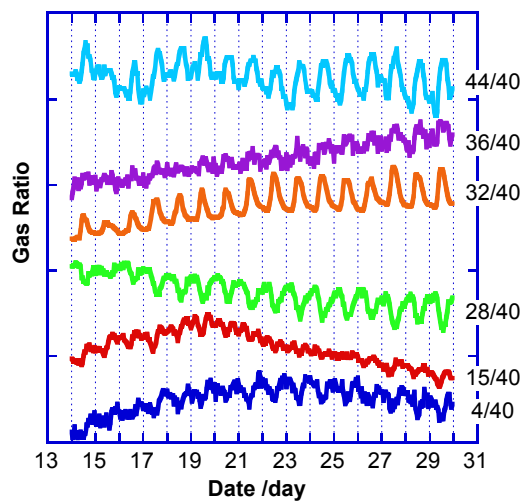


Figure. Temporal variations of gas ratios from august 14th 2000 to august 29th 2000 at Omaezaki 100m-deep well.

図 6. 7 2000 年 8 月 14 日から 8 月 29 日までに観測された，御前崎 100m 井の地下水から抽出されたガスの時間変化